

(様式第3号)

平成18年度調査研究中間報告書

調査研究 課 題	ブタインフルエンザウイルスの分子進化学的調査
計画期間	平成17年度～19年度 3年間
調査研究 計 画	<p>インフルエンザウイルスの生態系を考えるにあたり、ブタが様々な場面で重要な役割を果たしていることが海外の研究で明らかとなっている。将来日本においてもこれらの現象が起きることは十分考えられるので、これを捕捉できる体制作りの一環として本調査を行う。</p> <p>インフルエンザウイルスの種間伝播の可能性を日本において調査した報告はあるが、未だその証左は得られていない。よって本調査の持つ意義は十分あるものとする。</p>
進歩状況	平成17年9月から茨城県筑西市の筑西食肉センターにおいてブタ鼻腔より採材を適宜行い、18年3月までに計455検体を採取した。現在検体を細胞に接種しウイルス分離を試みている。現段階で約半数の検体について処理を終了したがウイルス分離はまだ成功していない。
これまでの 成果の 概 要	現在ウイルス分離を試みている段階である。
今後の 計画・課題 対応方法	本調査では特殊なタイプのウイルスが分離されることが考えられる。頻度はかなり低いと言わざるを得ないが継続して調査体制を継続することで結果がついてくるものとする。